

## 第34回 唐の衰退と滅亡

### 1 唐の律令国家体制

- 唐は、隋の中央集権体制を基本的に受け継ぎ、それを完成させた。  
→この体制を律令国家体制といい、他の東アジア諸国にも大きな影響を与えた。

- 地方行政は、郡県制に近い（ ）が実施された。
- 土地制度は、北魏や隋と同じく（ ）が実施された。  
→成年男性（丁男）に（ ）を支給し、死んだら返還させた。  
※民衆には永業田、高級官僚には官人永業田という世襲の土地も与えられた。  
→貴族は（ ）と呼ばれる広大な私有地を持ち、隸属農民に耕させた。
- 均田制にもとづき、（ ）という税制が実施された。
- 均田制にもとづき、西魏以来の（ ）という兵制が採用された。  
→折衝府が兵士を集めて訓練し、都を守る衛士や辺境を守る防人とした。
- 官吏任用制度では、隋以来の（ ）が実施された。  
※蔭位の制という家柄によって貴族が優遇される制度もあった。
- （ ）と（ ）からなる行政制度を組織した。
- （ ）からなる法律を整備した。※律は刑法、令は民法や行政法

### 2 武韋の禍



武則天  
悪女とされることが多いが、近年はその政治が見直されできている。  
国号以外にも、漢字や称号の変更を行っている。

- ◆（ ）（在位 690～705 年）
  - 高宗の皇后で、高宗の病に乘じて政権をにぎった。  
→690 年、中国史上唯一の女帝となり、国号を（ ）へと変更した。
  - 科挙官僚を積極的に登用するなど、中央集権体制をすすめた。
- ◆中宗（在位 683～684、705～710 年）
  - 高宗の後に即位したが、母の則天武后に廢位させられていた。  
→則天武后的死後に復位したが、今度は皇后の（ ）に殺された。  
※この 2 人の女性が権力を握った事件を（ ）という。

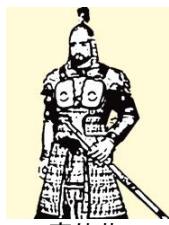
### 3 唐の再興と衰退

- ・武韋の禍の混乱をおさめて、皇帝となつたのが玄宗であった。  
→玄宗は、治世前半に唐を安定させたが、後半になると政治は乱れていった。



玄宗  
前半は政治改革をすすめ、唐の政治を建て直した。  
しかし楊貴妃を寵愛してからは、夜更かしをして朝起きないようになり、政治への関心を失った。

- ◆ ( ) (在位 712~756 年)
  - ・「 」と呼ばれるすぐれた政治を行つた。
  - ・8世紀になると、府兵制は均田制の破たんにより実施が難しくなつていて。  
→農民から集められなくなり、傭兵を雇う ( ) が導入された。  
→集めた兵士の指揮官として、辺境には ( ) が置かれた。
  - ・751年、中央アジアで起こつた ( ) で、唐はイスラーム勢力の ( ) に敗れた。  
→この時、( ) が中国から西方に伝わつたとされる。
  - ・玄宗は、治世の晩年に絶世の美女 ( ) を寵愛し、政治は乱れた。  
→755年、ソグド系の軍人で3つの節度使を兼ねていた ( ) と、その部下で同じくソグド系の ( ) が ( ) を起こした。  
→チベット系の ( ) が、この混乱に乗じて一時的に長安を占領した。  
→唐はトルコ系の ( ) の援助で、ようやく反乱を鎮圧した。



高句麗出身の軍人で、タラス河畔の戦いでは敗れたが、能力は非常に高かった。最後は安史の乱に巻き込まれて死んだ。

高仙芝



ドラマ『楊貴妃』

世界三大美女のひとりとされる。実際はかなり豊満な体つきをしていたらしい。好きな食べ物はライチ。安史の乱の際に殺された。



安禄山

父はソグド人、母は突厥人とされる。体重300キロだが、素早い動きでダンスも得意だった。しかし最後は糖尿病で失明し錯乱した。

### 4 唐の滅亡

- ・安史の乱の後、各地に置かれた節度使は行政や財政にもぎつた ( ) として、事実上の独立状態となつてしまつた。



徳宗  
少しだけ安定したが…

#### ◆徳宗 (在位 779~805 年)

- ・均田制が破たんし、租調庸制による税の徵収は不可能となつていて。  
→荘園と呼ばれる広い私有地を持つ者もいたが、戦乱で土地を失う者もいた。  
→780年、宰相の ( ) の提案で、( ) が導入された。  
※戸籍上ではなく現住地の財産に応じて、夏・秋の2回に分けて課税した。

- ・875年、塩の密売人の王仙芝と黃巢が ( ) を起こした。  
→907年、大混乱の中、( ) によって唐は滅ぼされた。  
→朱全忠は ( ) を建国し、これ以降を五代十国時代という。



朱全忠

元は黃巢の乱に加わっていた。途中で裏切り唐についていたのだが…。